

欧州特許庁、Google と機械翻訳の長期的な連携協定に合意

2011年3月27日

JETRO ティェツェルトゥルセンター

欧州特許庁（EPO）は、3月24日、Google と特許文献の多言語の機械翻訳に関し、長期的な連携協定に合意した旨、プレスリリースを行った。

EPO と Google は、2010年11月30日に機械翻訳の協力を合意していたものの、その際には具体的な協力事項について明らかにされていなかった。今回の長期的な連携協定に関するプレスリリースによれば、EPO ウェブサイトにおいて Google の機械翻訳技術の利用によって、28の欧州言語、中国語、日本語、韓国語、ロシア語の合計32の言語への特許文献の翻訳が段階的に公共に提供されるようになり、2014年には完了する見込みであるとしている。

一方、翻訳された特許文献の完全な資料をEPOがGoogleに対して提供することによって、Google は特許登録に利用される特定の言語に対する機械翻訳技術の最適化を行うことができる。なお、本合意は非独占的であり金銭的な要素を含まない。

同プレスリリースによれば、EPO と Google の連携協定は、欧州各国、中国、日本、韓国、ロシアで許可された数百万件の特許の無料かつリアルタイムでの翻訳を可能とし、これによって、欧州の技術革新者は自身の発明に関連する特許文献をサーチする際のコストおよび時間を削減することができるため、研究開発において大きな利益を得ることができる。また、EPO のパティステリ長官は次のように述べている。

「機械翻訳は、言語の壁を乗り越え、特許に含まれる情報を世界中で入手可能かつ利用可能にするために役立つ。新しい翻訳ツールは欧州におけるイノベーションを改善し、欧州企業が他の地域において競合企業と対等に活動することを可能にする更なる足掛かりである。さらに、統一特許の進展を促進するものでもあると信じている。」

— EPO のプレスリリースは、以下参照 —

[EPO and Google break the language barrier for Europe's innovators](#)

— EPO と Google との機械翻訳の合意は、欧州知的財産ニュースを参照 —

[欧州特許庁、Googleとの機械翻訳の協力を合意（2010年12月1日）（PDF）](#)

(以上)